

水田蛙

白い月

花壇のフチに腰かけて
腕を伸ばしてみたら
真っ白い月に
想いほか届いてしまったから
そのまま誰にも言えず
そっと手の中に閉じ込めた
ちようどいい入れ物もないから
気もそぞろ
たまに転がす
からころころり
こぼれ出す灯りは
きつと誰のものにもならない
夜が満ちて
さようなら
もう私はどこにも行かないから
そしてどこにも行かないなら
砂糖醤油にでもつけて
そっと食べてしまおうか